

再構築 中活

しばたしちゅうしんしがいち
新発田市中心市街地地区
 （新潟県 新発田市）

- 計画期間 平成25年度～平成29年度
- 面積 250ha
- 交付対象事業費 5,742百万円
- 市人口 94,718人

ポイント

中心市街地内で、公的不動産の移転・再整備を繰り返し、また民間活力も含め、優良宅地造成等を行い、中心市街地の都市構造の更新を行っていく。

地区概要

当地区は、新発田城下町時代の都市構造が色濃く残り、鉄道駅やバスターミナル等の公共交通の結節機能、衰退しているものの商店街や企業の支店等を中心とした経済機能、行政施設、教育施設、市民活動施設等の公共公益機能を有する。

目標

新発田の歴史を活用したまちづくりと住民の生活機能を重視し、誰もが充実した市民生活を送ることができるまちづくりの実現を図る。

指標

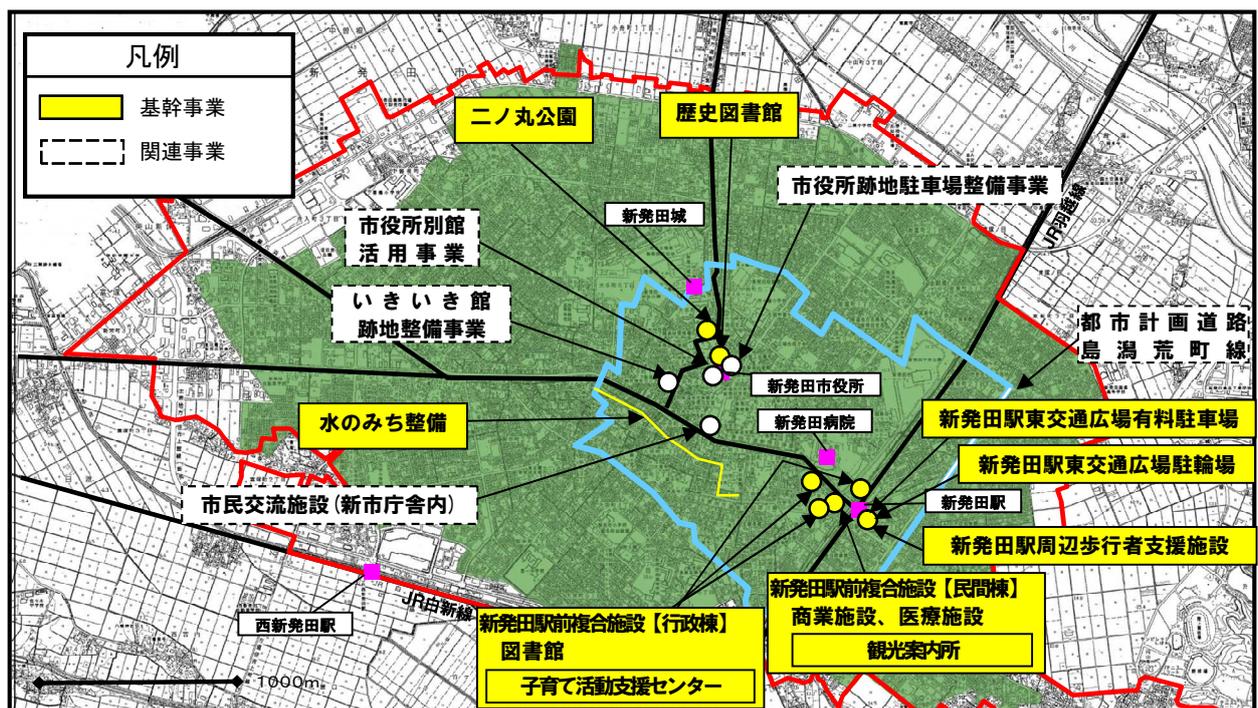
歴史を活用したまちづくりと住民の生活機能を重視し、誰もが充実した市民生活を送ることができるまちづくりの実現を図るため、居住者の減少率・通行量・観光客数・空き店舗率を指標とした。

中心市街地の居住者の減少率	▲3.80% (H24)	→	▲1.10% (H29)
中心市街地の通行量	4,623人 (H24)	→	4,486人 (H29)
観光入込客数	77,400人 (H24)	→	77,721人 (H29)
空き店舗率	28% (H24)	→	28% (H29)

事業内容

基幹事業 (5,742百万円)

二ノ丸公園	A=10,135㎡	新発田駅前複合施設【行政棟】	A=7,140㎡
新発田駅前複合施設【民間棟】	A=3,133㎡	新発田駅東交通広場有料駐車場整備事業	A=429㎡
水のみち整備	L=1,100m	新発田駅東交通広場駐輪場整備事業	A=821㎡
新発田駅周辺歩行者支援施設整備事業	A=4,071㎡	歴史図書館	A=2,200㎡



地区の現況と課題

〈現況〉

新潟県北部地域の中心として発展してきたが、近年は魅力的な機能が郊外に向き、中心市街地にかつてのような求心力は無い。計画期間前の空き店舗率は28%、居住人口は20年間で20%減少している。

このような中、平成25年度には、中心市街地活性化基本計画を改訂し、新発田駅から新発田城までの間に「情報発信ゾーン」、「公共サービスゾーン」、「歴史・文化ゾーン」の3つのゾーンを設け、それぞれに核となる施設整備を行うことで、中心市街地の活性化を図ることとしている。

新発田駅前複合施設（イクネスしばた）

図書館、プレイルーム、こどもセンター、キッチンスタジオ、音楽練習室それぞれが機能融合した行政棟を建設した。隣接地に民間事業者による商業施設、医療施設、観光案内所と学生寮が入る民間棟を建設した。

二ノ丸公園（アイネスしばた）・歴史図書館

城南の遊休地に、防災機能を有する市民が憩う公園を整備し、駅から公園までの動線に、歴史・文化拠点として歴史図書館を配して、市民はもとより来訪者が新発田の歴史に触れる機会の増加を図った。

〈課題〉

アイネスしばた、イクネスしばた（基幹事業）、ヨリネスしばた（関連事業）の整備により、中心市街地における「まちの顔（目・鼻・口）」にあたる3つの拠点の整備は終わったが、今後は、それらの機能を最大限に活用しながら、有機的にそれぞれの活動をつなぐネットワークを強化し、併せて面的な整備を推し進めていく必要がある。“点”の賑わいから“線”の賑わいに、そして“面”の賑わいへと導いていきたい。

計画策定プロセス

新発田駅周辺整備基本計画の策定

平成18年に検討委員会を立ち上げ、10回の委員会を開催、平成20年に提言書を提出。その後、動態調査等を行い、平成24年2月に基本計画を策定した。

県立病院跡地活用整備構想・計画の策定

平成18年度に新発田病院が新発田駅前に移転開院。平成19年度から跡地利用について検討し、平成21年2月に構想を策定、翌22年8月に整備計画を策定した。

中心市街地活性化基本計画の改訂

平成24年度に庁内プロジェクトメンバーで検討。平成24年11月から翌年5月まで、市民・来街者・土地所有者・商工業者を対象にアンケートを実施し、9月に改訂した。

▶ 中心市街地における公的不動産の移転・更新図



▲新発田病院跡地の二ノ丸公園（アイネスしばた）



▲街中に建つ新庁舎（ヨリネスしばた）半屋内のイベント広場「札の辻広場」



▲駅前複合施設（イクネスしばた）の整備前と整備後の状況（左：行政棟、右：民間棟）

